

第 30 回 福島問題研究会 議事録 (ダイジェスト版)

日時：平成 30 年 2 月 19 日 (月) 14:30~18:00

場所：化学工学会会議室

出席者：(敬称略) 小林、中尾、橋本、鈴木、郷、松井、松田、横堀 (記録)

オブザーバー：山本正弘 (JAEA)、(三洋)、牛尾 (花王)

1. 前回議事録

前回議事録 (資料 1) に対し特にコメントがなく確認された。

2. 1 F 現地視察 (見学会) の状況

12 月 14 日に開催した現地視察の状況について資料 2 に基づき見学内容の報告・確認を行い、見学会に参加できなかった会員との情報共有を図った。

申込みは研究会会員 8 名と一般会員 6 名の計 14 名となったが、その後、健康上の事由等で 2 名の辞退があり 12 名が参加した (研究会会員 7 名と一般会員 5 名)。

後日、東電から見学時の写真を送付いただいているが、数が多すぎるので、少し選別して資料 2 に加える事で整理してはとの提案があった。

3. 山本正弘氏との意見交換

(討議内容)

(1) 冒頭に山本氏より説明があり、意見交換を行った。説明の要点は次のとおりである。

- ・ 化学工学的思考や、管理思考が必要である。
- ・ 化学工学と原子力とのつながりとなるので積極的にサポートはしたい。
- ・ CLADS からの要請は学会がまとめた提言と噛み合うところがある。

(2) その他、意見交換では次のような発言があった。

- ・ 戦略プランは次々と出てくるが反省なしに見える。これで良いのか。
- ・ 全体像は誰がみて、運営しているのか。プロジェクトリーダーが不在ではないか。
- ・ 海外のアドバイザーは機能しているのか。
- ・ 廃炉に関する委員会の構成員が原子力関係者に偏りすぎているようだ。
- ・ 批判は大事であるが、物事を動かすには建設的な提案が必要である。
- ・ 石棺も選択肢ではないのか。
- ・ ロードマップに載せているのはほぼ想定できる対応である。デブリを取り出すと想定外の事が起ってくる。
- ・ 東電 COOS00 のようなもののチャンネル作りと考えてみてはどうか。
- ・
- ・

(主な結論)

- ・ とりあえず、山本氏からの提案は化学工学会は長谷部先生にお伝えする。
- ・

4. その他：次回日程等

次回予定 未定 (後日調整)

5. 関連資料

- 1) 第 29 回福島問題研究会議事録
- 2) 福島問題研究会見学会メモ (中尾)

- 3) 福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン2017について (NDF)
- 4) 世界の英知を結集した廃炉研究開発拠点形成のための 廃炉研究等推進事業費補助金 (CLADS 補助金) (文科省)

以上